

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農業使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第7号 畜産

発行日 平成23年9月29日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/>」

トウモロコシ

◆ 収穫適期に到達しつつあります。収穫作業を速やかに進めましょう。

牧草

◆ 牧草の刈り取り危険帯の時期に入ります。この時期は刈り取りや施肥を避け、来春の生育にそなえましょう。

1 トウモロコシの収穫・調製

- (1) 熟期は黄熟期に到達しつつあります。子実熟度を確認して作業に入ります(収穫適期については、第6号を参照してください)。
なお、飼料用トウモロコシ等夏作飼料作物の利用自粛が要請されていますので、市町村単位に実施されている放射性物質検査を確認してから利用するようにしてください。
- (2) 熟期が完熟期に近い場合は、子実が硬く、詰込水分がやや低くなりますので、収穫時の切断長を10mm未満とし、子実の消化を確保すると共にサイロへの詰込密度を高めます
- (3) 過度の刈り遅れや、すす紋病、霜にあたったトウモロコシは、水分含量が低く、開封後、二次発酵が起こりやすくなります。乳酸菌製剤・プロピオン酸などの添加剤の使用を検討しましょう。
- (4) 刈り遅れた圃場では、カビが増殖している可能性があります。このサイレージを開封するときは、カビの有無をよく確認し、給与時にカビは取り除くとともに、ビタミン給与量の増加や、カビ毒吸着剤の使用を検討しましょう。

【倒伏や折損した場合】

- ・ できるだけ早期に収穫します。
- ・ 収穫にあたっては、ハーベスタの収穫方向をよく考え、作業機の運行速度を控えめにします。また、やや高刈りとするなど収穫時の土壌などの混入を避けましょう。
- ・ 倒伏や折損の場合は、切断長が粗くなりやすいことから詰込み密度を確保するために、十分な踏圧と早期密封に努め、発酵品質低下を抑制しましょう。
- ・ 黄熟期前の収穫となる場合は、乳酸菌製剤の添加を検討します。

2 草地管理 — 牧草の刈り取り危険帯 —

オーチャードグラス等の寒地型イネ科牧草は、気温が低下し日が短くなると、茎葉の成長がしだいに鈍化して、根が肥大し、越冬の準備に入ります。この時期に刈り取ると、来春の生育に悪影響を及ぼします。

(1) 刈り取り危険帯の時期

オーチャードグラスでは、日平均気温が15℃になる日からおよそ40日間が刈り取り危険帯の時期となります。

牧草が休眠に入る時期である日平均気温が5℃以下になるまでに、牧草の地下部に越冬のための貯蔵養分が蓄えられるよう、この時期の牧草の刈り取りは控えましょう。

なお、各地域の刈り取り危険帯の始まり(日平均気温15℃)と終わり(日平均気温5℃)の時期はおおよそ次のとおりとなりますので、参考にしてください。

(下表を見ると、日平均気温15℃と5℃の期間が40日以上ある地点がありますが、牧草が休眠する5℃以下になるまでに牧草地下部に貯蔵養分が蓄えられればよいので、日平均気温が15℃以下になってから40日以上刈り取りを控えればよいこととなります。)

	刈り取り危険帯の始まり (日平均気温 15℃)	終わり (牧草休眠) (日平均気温 5℃)
	平年値	平年値
奥中山	9月22日	11月10日
久慈	10月4日	11月23日
盛岡	10月3日	11月19日
江刺	10月6日	11月21日
一関	10月9日	11月26日

(アメダス調べ)

(2) 施肥

刈り取り危険帯の時期に窒素成分を供給すると、牧草は養分の蓄積作業を止め、分けつや成長を始めてしまいます。この時期は刈り取りだけでなく、施肥も控えてください。窒素成分を多く含んだ堆肥の施用も避けましょう。

農作物技術情報第8号は10月27日(木)発行の予定です。
 気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
 ※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
 ※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来